



運搬



生活文化

34
まいん

さくそうばあと 索道場跡



新居浜方向への展望
昭和30年代撮影
別子銅山記念館所蔵

さくどうば
索道場は、
ちようこ せんとうじようさくどうきち
貯鉱庫、選鉱場、索道基地、
からなります。

索道場の役割は、いかだつこう
や東平坑、太平坑からの鉱
石を東平索道場へ集め、新
居浜の端出場へ搬出するも
のでした。また、生活物資や
坑内に使用する資材を端出
場から搬入する為にも利用
されました。

生活をつなぐ索道
心と心をつなぐ索道

索道とは、空中にロープを張りそのロープ
になべ(搬器、パケットと呼ばれる)を付けて
鉱石や生活物資などを運搬するものです。東
平の索道は動力を使用せず、鉱石を降ろす重
さを利用して生活物資等を下から荷揚げしま
した。

索道基地は、東平から新居浜側の黒石への
ルートができたのが明治38年(1905)、その
後、端出場側へルート変更したのが昭和10年
(1935)でした。

索道基地の上には、選鉱場と貯鉱庫が設置されていました。

坑道から運び出された鉱石は、貯鉱庫に運ばれます。さらに、その下に設置されている選
鉱場に下ろし、素石と呼ばれる鉱石を含まない石と鉱石に分けられ、二つ目の貯鉱庫に貯蔵され
ます。そして、索道基地から索道を利用して搬器に移し、搬出されました。

選鉱場は、明治38年に設置され、昭和5年に新居
浜の端出場へ移設され廃止されました。

貯鉱庫は、はっきりした時期が不明ですが、選
鉱場、索道基地の開設された時期から判断すると、明
治38年でしょう。

昭和43年の東平
坑閉坑により索道は
廃止されました。し
かし、索道基地や貯
鉱庫は、当時のまま
の姿で残されていま
す。



索道基地全景
昭和43年(1968)
原 茂夫氏撮影

搬器の送り出し
の様子
昭和30年代撮影
別子銅山記念館蔵



貯鉱庫跡



東洋のマチュピチュと称されている

